

家庭総合・家庭基礎・保育基礎 学習指導案

1. 「題材名」 幼児とのふれあい（保育実習2回目）
- ①日 時 令和〇年 1月 〇日 第3, 4時限（10:50～12:30）
- ②場 所 〇〇こども園 園内各所（教室・講堂・お遊戯室など）
- ③学 年 第〇学年全クラス or 「保育基礎」選択生全員

2. 「題材について」

（1）教材観

現代の高校生である10代の子どもたちは、物質面では何不自由なく生活できる中で、精神面では、家庭や地域の人間関係の希薄さの中で、人とうまく関わるのが苦手な子が多くなってきている。核家族化や少子化の傾向は、高校生が幼児とふれあう場を少なくし、生徒の心身の発達にマイナスの影響が出ることもあると考えられる。

このような状況にある生徒が、幼児とのふれあいの体験を通して、幼児の心身の発達や生活・遊びなどの実態を知り、人の助けや援助が必要な幼児に目を向けて、弱い者への気遣いや思いやりの心を育てることは大切なことである。

本題材の幼児との交流では、「生徒が幼児の生活に関心を持ち、課題を持って幼児の遊具を作り一緒に遊ぶなどのふれあいの体験を通して、幼児への理解と関心を高めるとともに、幼児と適切にかかわること」をねらいとしている。

保育実習1回目は園児との顔合わせも兼ねて、折り紙や絵本、紙芝居を持参して園児とのふれあい交流が中心となる。園の教育プログラムに沿って園児と交流し、紙芝居を読んだり、折り紙を折ったりもするが、園のプログラムの中で行われているリトミックや工作などのアシストも行う。また昼食時に行くので、園児と一緒に昼食を食べる。昼食が早く食べ終わる可能性が高い年長クラスでは、グラウンドでボール遊びやダンスなども一緒に行う。

保育実習2回目は幼児の喜ぶものを作ろう、作った遊具で遊ぼうが中心になる。

「カタパルト」という簡単なおもちゃの材料を高校から持参し、こども園で組み立てる。高校生は園児の遊びをアシストする生徒、カタパルトの位置を調整する生徒、カタパルトから発射されたペットボトルの蓋が入ったかどうかを確認する生徒、カタパルトの位置と入ったかどうかを記録する生徒などに分担して、園児にカタパルトをしてもらう。

年中組・年長組などで余裕があれば、グループ毎で作成されたグラフを比較し、最も多くペットボトルの蓋が入ったチームなどを決めるなど、チーム戦を行ってもよい。高校生も幼児も小グループに分かれ、どこの位置にカタパルトを置けば、ペットボトルの蓋の入る確率が高いかを探す。

最後は園児と一緒に昼食を摂り、学校に帰校する。

(2) 生徒観

本校の生徒はきょうだいの数が少なく、きょうだいがいっても10代のきょうだいが多い。ゆえに普段から幼児と接する機会が少ないので、幼児と一緒に過ごすことに戸惑いを覚える生徒が多くみられる。

しかし本校は毎年〇学年全クラスが春と冬に2回、2時間連続授業として近隣のこども園に保育実習を行っている。保育実習のことは年度当初の授業のオリエンテーションの時に生徒に伝えており、保育実習を楽しみにしている生徒は多く、積極的に授業に参加している。

(3) 指導計画

全18時間

こども園の幼児と交流しよう

- | | |
|---|-----|
| ① 保育実習に向けて、園児と交流する児童文化財を知ろう | 4時間 |
| ・ 絵本の読み聞かせを2人1組になり、生徒同士で行う。 | |
| ・ 紙芝居の読み聞かせを4人1組になり、生徒同時で行う。 | |
| ・ 折り紙1枚を使って、簡単な折り紙を7つほどクラスで一緒に行う。 | |
| ・ 保育実習に向けての事前学習（園児と交流する上での注意点、当日のプログラムについての確認） | |
| ② 保育実習（園児との交流）へ行こう | 2時間 |
| ・ こども園施設の見学、園児の園生活の把握 | |
| ・ 園の教育プログラムにおける保育士の園児への関わりを見学 | |
| ・ 高校から持参した絵本や紙芝居、折り紙を使って、園児と交流する。 | |
| ③ 保育実習を振り返ろう | 2時間 |
| ・ 「保育実習に参加して①」のレポートを作成する。 | |
| ・ 2回目の保育実習に向けて、グループ分け・内容確認をする。 | |
| ④ 第2回保育実習で使用するおもちゃを試作し、使ってみよう | 6時間 |
| ・ 幼児におけるおもちゃの役割について | |
| ・ おもちゃ（カタパルト）の製作をする。 | |
| ・ カタパルトを実際に使用し、ゴール（段ボールやプラスチック容器）に入る最適な距離を割り出そう。 | |
| ・ 高校生を小グループ（5，6人で1グループ）に分け、園児10人に対して1つのカタパルトを製作する。 | |
| カタパルトから発射されたペットボトルの蓋がゴールに入ったどうかを記録する用紙とグラフを必要分、作成する。 | |
| ⑤ 保育実習（カタパルトを使って園児と遊ぼう）へ行こう | 2時間 |
| ・ 園の各クラスの園児を10人1グループに分けていただき、高校生のグループとペアリングする。各グループがカタパルトができる空間へ移動する。 | |

- ・高校生は事前に割り振った役割に付き、園児をサポートしながらカタパルトを使って園児と交流する。
- ・講堂やお遊戯室などに全グループが集合し、ペットボトルの蓋が入る最適距離を示したグラフで結果を発表し、各グループの結果を比較し、高校生が講評・まとめをする。
- ・最後は園の各クラスに分かれ、一緒にお昼ご飯を食べる。

⑥ 保育実習を振り返ろう

2時間

- ・「保育実習に参加して②」のレポートを作成する。各グループで割り振った生徒各自の役割を果たしたかなど、グループ内で相互評価する。
- ・保育分野学習のメインである保育実習を終えて、保育分野の学びについて振り返る。

3. 本時について

(1) 本時のねらい

- ・前回の保育実習により、上手くいった点、上手くいかなかった点を改善して、手作りおもちゃ（カタパルト）を通して遊ぶことにより、園児との関わり方を工夫することができる。

(2) 本時の準備物

- ・各グループで1つ作成する「カタパルト」の材料（割りばし4本、輪ゴム、スプーン、ペットボトルキャップ1個）
- ・生徒はおにぎり弁当（おにぎりの中におかずを入れる形のおにぎり）と水筒

(3) 参考資料

【カタパルトについて】

**Tips 近年の研究動向(1) STEM教育を志向したPPDACの実践(1)
:カタパルトで遠くに飛ばそう！**



カタパルト作成は簡単！
班ごとにデータを測定・収集し、より良いカタパルトの完成を目指す

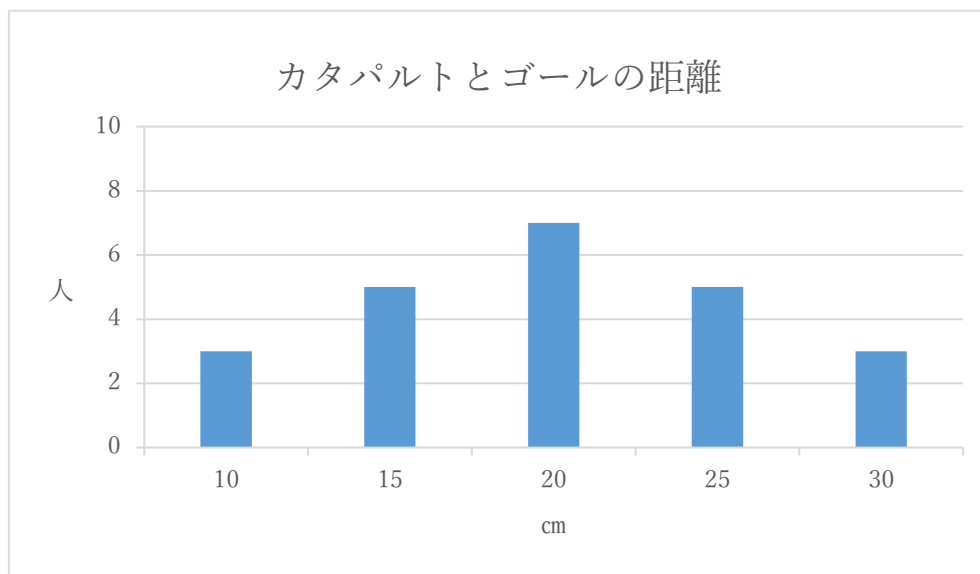
＜準備＞

割りばし4本、輪ゴム、スプーン or フォーク、ペットボトルキャップ

※角度だけ変えるなど、変数を意識化し、ある程度条件を揃えて実験の必要有

【出典】Watson, J., Fitzallen, N., & Chick, H. (2020). What is the role of statistics in integrating STEM education? In J. Anderson & Y. Li (Eds.), Integrated approaches to STEM education (pp.91-115). Springer.

【カタパルトを飛ばした結果をグラフにする】



(4) 本時の評価基準

知識・技能【a】	思考・判断・表現【b】	主体的に学習に取り組む態度【c】
・園児とカタパルトで一緒に遊ぶことができる。 ・割り当てられた役割の仕事を行うことができる。	・園児が遊ぶにあたり、遊び方がわからない等戸惑っている場合にサポートすることができる。 ・園児が順番を守らない、園児同士で揉めるなど、仲裁に入らなければならない場合は、保育士さんに確認後、園児と関わり、軌道修正する。 ・園児と一緒に食べる昼食時には、園児の様子を観察し、適切な支援をする。	・「カタパルトで遊ぼう」を行うにあたり、遊びに入る前に園児を乗り気にさせたり、遊びの途中でも、拍手や園児に声掛けをするなど、積極的に遊びに関わる。

(5) 本時の展開

学習活動	教師の働きかけ	評価・留意点
○各グループに分かれて、カタパルトを使って遊ぶを行う。 ○園児の反応などをみて、園児を適切にサポートする。 ・グループ内の園児への声かけ ・園児同士の動き ○園児の行動・気持ちに沿って、遊び方や関わり方をする。 ・想定外の園児の遊び方や行動に対応する。 ○園児が楽しく遊び、ペットボトルの蓋が何個、どの距離で入ったかをグラフにして、可視化する。 ○各グループに分かれ、園児のクラス教室に移動し、昼食を一緒に食べる。	○園児への適切な対応をしながら遊ばせているかを確認すると同時に、安全面の配慮も見届ける。 ○生徒が割り当てられた役割を行っているかも見届けると同時に、生徒同士も互いに観察するように促す。 ○想定外の園児の行動などにも柔軟に対応できるように声かけする。 ○グループの他の生徒とも協力し、園児に対応できるように促す。 ○ペットボトルの蓋が入れ物に入った園児・入らなかった園児どちらも遊んで楽しかったと思える声掛けと結果発表を行うよう声掛けする。 ○今回は3, 4, 5歳児との交流なので、食事介助の必要性は低いが、園児がスムーズに食べられるように支援するように促す。	【a】 一緒に遊ぶ。 【b】 園児をサポートする。 【b】 園児の想定外の行動は軌道修正する。 【c】 園児に楽しんでもらえるようなゲームの運営・結果発表の方法をする。 【b】 園児に適切な支援をする。